

2023年3月期 決算短信補足資料

(2022年4月-2023年3月)

2023年5月8日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)



目次

- 2023年3月期 事業概況 3 ~ 10 ページ
- 2024年3月期 環境・施策 11 ~ 17 ページ
- Appendix 18 ~ 24 ページ

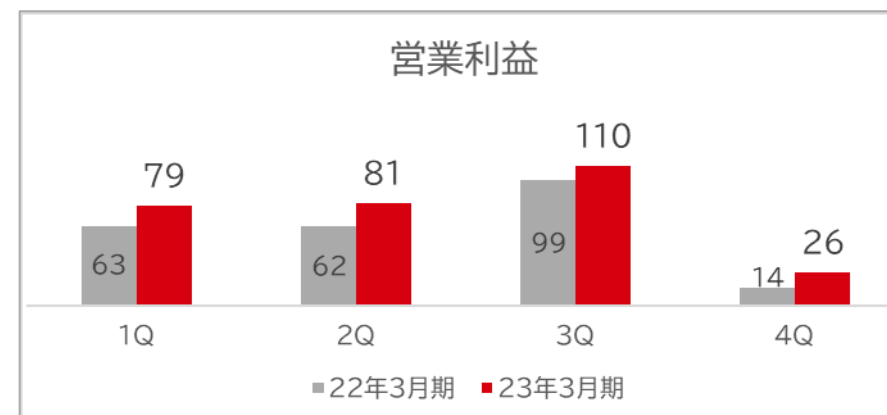
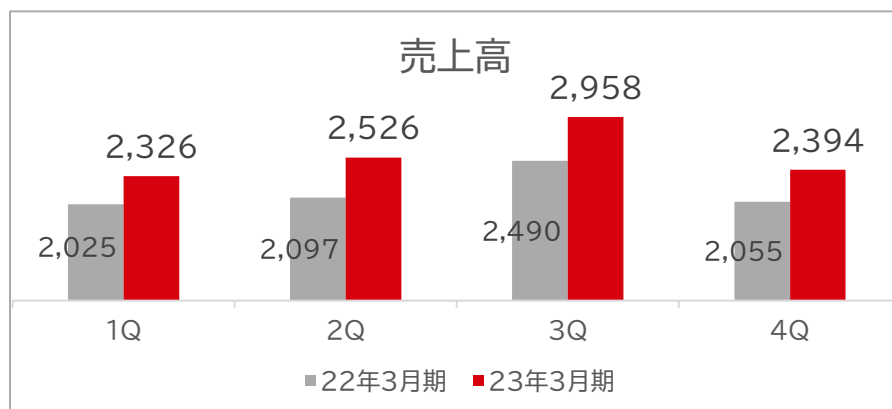
2023年3月期 事業概況

通期決算ハイライト

魚価の上昇や加工食品の価格改定を受けて、売上高は年間計画を大幅に上回り、経営統合以来、初めて1兆円を達成。営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も、統合以来の最高値を更新。

(単位:億円)

	23年3月期	22年3月期	増減	増減率
売上高	10,205	8,667	1,538	+17.7%
営業利益	296	238	58	+24.2%
経常利益	335	276	59	+21.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	186	169	17	+10.0%



通期決算のポイント

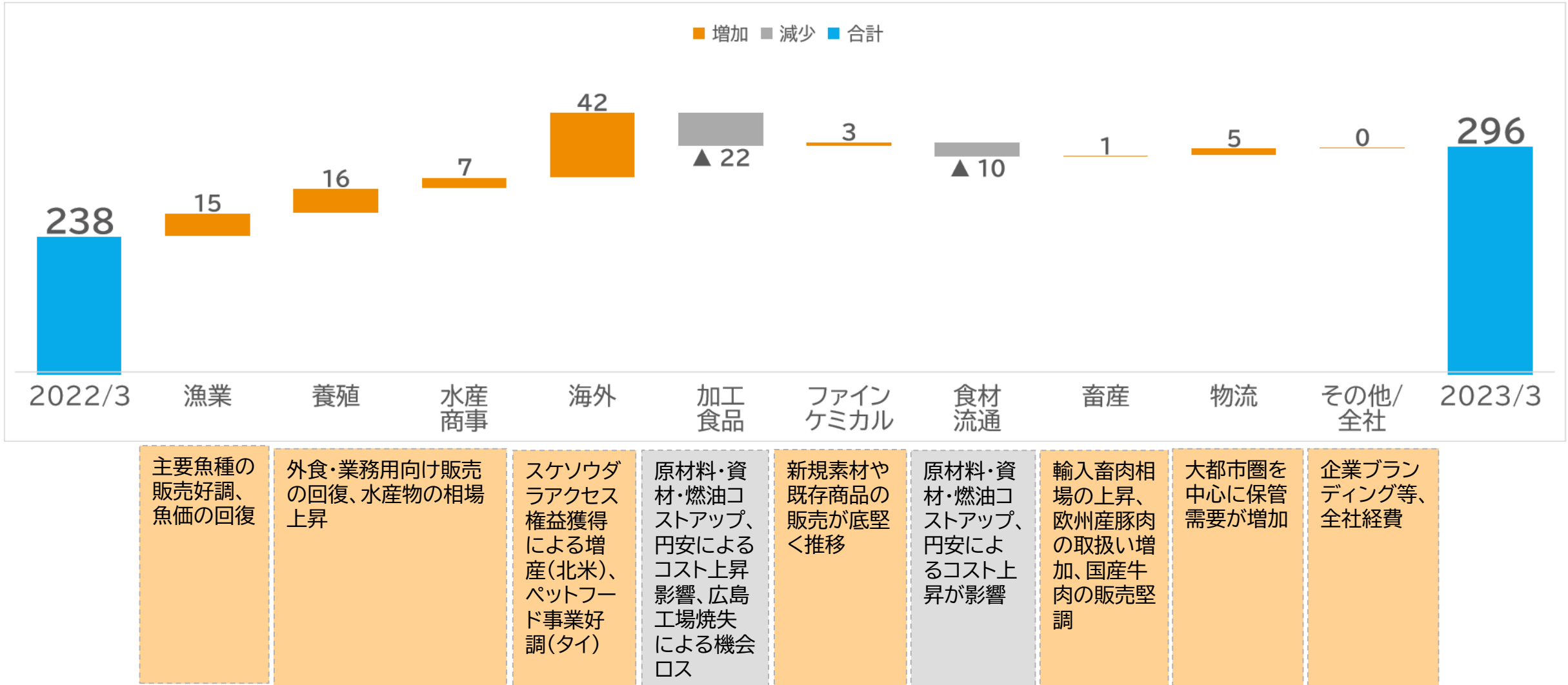
水産資源セグメントは、第4四半期で一部の水産物相場が下落したものの、第3四半期までの好業績が全体をカバーし、前年対比で大幅な増収増益。

- 第3四半期まで好調だった水産商事ユニットは、第4四半期で一部魚種の相場が下落したほか、水産物全体の相場先高感が解消されたことにより販売が鈍化したものの、第3四半期までの好業績により、増益。
(水産商事ユニット営業利益 前年対比+7億円)
- 海外ユニットのペットフード事業(タイ)と、スケソウダラ事業(北米)が好業績を牽引。
(海外ユニット営業利益 前年対比+42億円)

加工食品セグメント・食材流通セグメントは、コストアップと値上げ時期のずれにより苦戦。

- コストアップ分を期中にカバーしきれず、減益。
(2セグメント合計の営業利益 前年対比△28億円)
- 2023年2月実施の値上げ分は、2024年3月期に寄与。

営業利益の増減要因

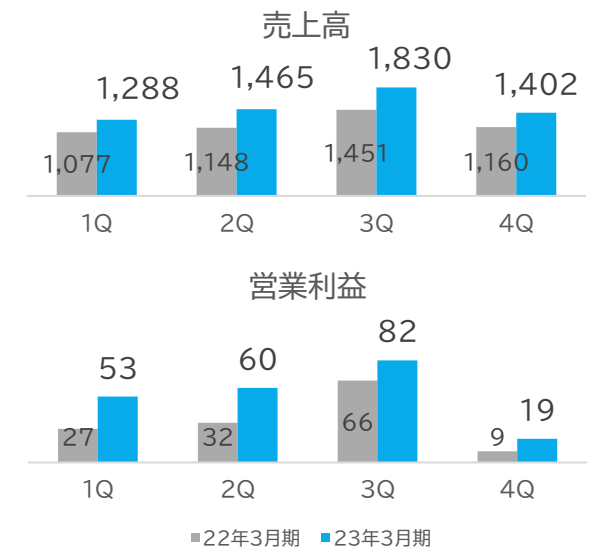


水産資源セグメント

魚価の回復や相場上昇、販売数量増等、第3四半期までの好業績により、60%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比
漁業	422	315	108	+34.2%	18	3	15	+569.4%
養殖	159	146	12	+8.4%	16	△0	16	—
水産商事	3,099	2,786	314	+11.3%	45	38	7	+19.2%
海外	2,305	1,589	715	+45.0%	134	93	42	+44.7%
セグメント計	5,985	4,836	1,149	+23.8%	214	133	80	+60.2%



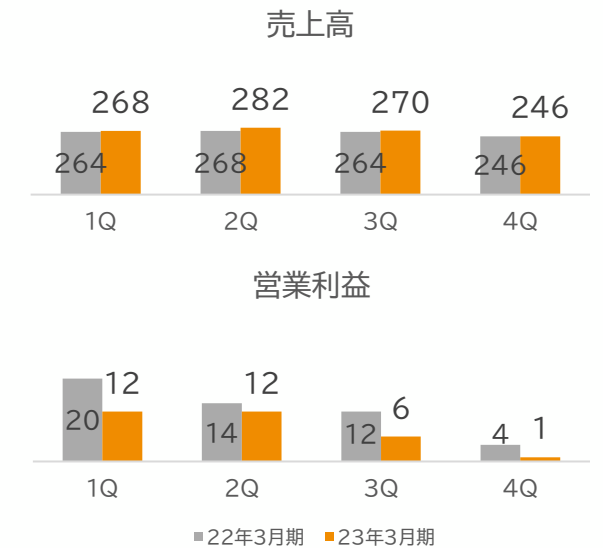
- **漁業** メロを始め、主要魚種の販売好調により増収。魚価の回復により増益。
- **養殖** 量販店や外食向けを中心としたブリ、カンパチの販売数量増加・販売価格の回復に加え、マグロを始めとした主要魚種相場の上昇により、増収増益。
- **水産商事** 外食・業務用向け販売の回復に加え、水産物全般の堅調な魚価に支えられ、増収増益。
- **海外**
 - <北米> 生産効率の向上や新規獲得のスケソウダラ資源で生産増。また堅調なマーケットの中で販売価格が上昇し、増収増益。
 - <欧州> 水産物需要拡大に対応した仕入販売および買収等による子会社増加により、増収増益。
 - <アジア> ペットフード事業の北米向け販売好調及びドル高バーツ安により、増収増益。

加工食品セグメント

加工食品ユニットでのコストアップと価格改定のズレにより、全体で39%減益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比
加工食品	989	974	15	+1.6%	17	39	△ 22	△56.0%
ファインケミカル	78	68	9	+13.5%	14	11	3	+23.5%
セグメント計	1,066	1,042	24	+2.3%	31	51	△ 19	△38.5%



- 加工食品**

食品全体の値上げによる消費心理の冷え込みや節約志向が見られ、数量面では苦戦するも、継続する簡便食ニーズに加え、価格改定効果や販売拡大に向けた施策が奏功し、増収。

一方、引き続き原材料、エネルギーコストの高騰及び為替変動の影響を受け減益。

冷凍食品では、広島工場焼失による販売機会ロスが発生。
- ファインケミカル**

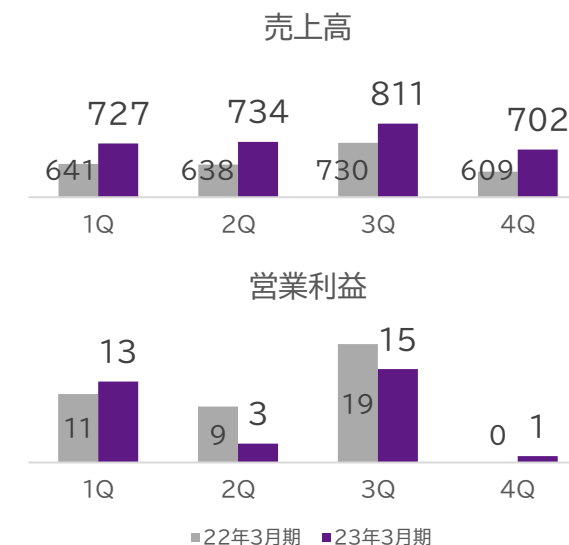
新規参入したヘパリンの販売や既存の健康食品向けの販売が底堅く推移し、増収増益。

食材流通セグメント

食材流通ユニットでのコストアップと価格改定のズレにより、全体で21%減益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比
食材流通	2,113	1,908	205	+10.7%	23	32	△10	△30.1%
畜産	860	711	149	+21.0%	8	7	1	+18.7%
セグメント計	2,973	2,619	354	+13.5%	31	39	△8	△21.4%



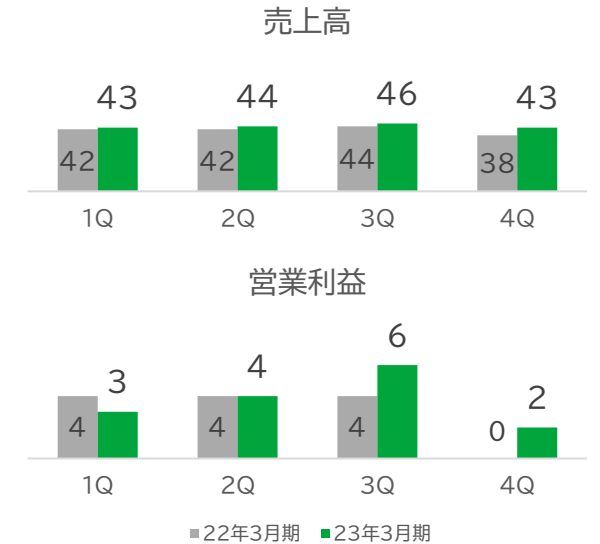
- **食材流通** 外食向け販売が回復し、給食・介護食向けも堅調に推移し、増収。一方、価格改定を実施し、生産性の向上や効率化に努めたものの、原材料・エネルギーコストの高騰や円安の進行によるコストアップのカバーまで至らず、減益。
- **畜産** 全般的な輸入畜肉相場の上昇、欧州産豚肉の取扱い増加に加え、国産牛肉の販売が堅調に推移し、増収増益。

物流セグメント

保管需要を着実に取り込み、44%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比	23年3月期	22年3月期	増減	前年対比
物流	176	166	10	+6.1%	16	11	5	+43.8%



- 物流 電気料金の値上げに伴い動力費が大幅に増加となったものの、大都市圏を中心に保管需要を着実に取り込んだことにより、増収増益。

2024年3月期 環境・施策

通期計画

- 水産物相場は高止まり。調達コスト高が続くため、早期の在庫販売に徹する。
- 食品は、前期に実施の価格改定が寄与し、コストアップした分をカバー。
- インフレによる欧米経済の失速を踏まえ、上期は前年対比で減益を予想。

(単位:億円)

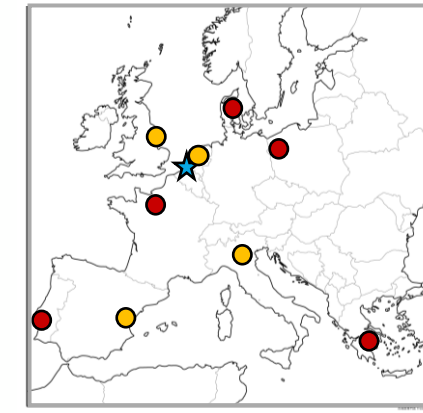
	23年3月期	24年3月期 (計画)	25年3月期 (中計最終年度)
売上高	10,205	9,800	9,600
営業利益	296	270	270
経常利益	335	270	—
親会社に帰属する当期純利益	186	185	—

水産資源セグメント

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高				営業利益			
		24年3月期	23年3月期	増減	前年対比	24年3月期	23年3月期	増減	前年対比
水産資源	漁業	458	422	35	+8.5%	26	18	8	+46.6%
	養殖	142	159	△16	△10.5%	2	16	△14	△87.8%
	水産商事	2,680	3,099	△419	△13.5%	39	45	△6	△13.8%
	海外	2,327	2,305	23	+1.0%	106	134	△28	△21.1%
	セグメント計	5,608	5,985	△377	△6.3%	174	214	△40	△18.6%

Seafood Connection

Seafood Connection
(オランダ)の欧州拠点

★ 本社

● Seafood Connection各拠点

● 子会社

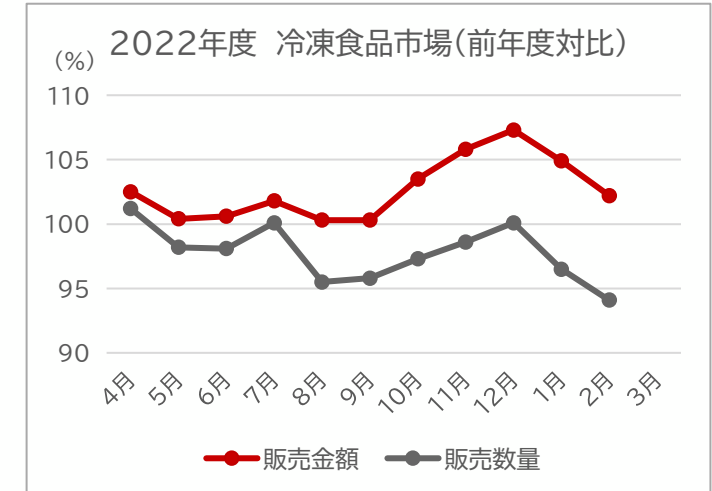
- 漁業 燃油価格高騰に対するコスト抑制や操業体制の見直し、自社加工度を高める等販売ルートが多様化により、収益性を向上させる。
- 養殖 燃料・飼料代の高騰による原価上昇を懸念⇒配合飼料の見直しを含むコスト最適化や飼育技術の向上、輸出を増やして影響緩和に努める。
マグロを含めた、グループ内連携による販売多様化も進める。
- 水産商事 世界的に相場が高値圏にあり、今期は調達コストが厳しい環境。 商事⇄荷受間の連携強化による販売拡大と、在庫管理を徹底し、安定した利益を確保。
- 海外 <北米> 人件費上昇や燃油価格の高止まりに対し工場要員の最適配置と生産効率向上によるコスト抑制、スケソウダラ漁獲枠を最大限活用。
<欧州> 前期に買収した子会社の収益が通期で寄与。ガバナンスを強化し、グループシナジーを醸成。
<アジア> タイのペットフード事業は主要市場である北米が在庫調整局面へ。商品開発による競争優位性を高めるほか、販路開拓で販売量維持に努める。

加工食品セグメント

前期実施の価格改定は概ね受容されたものの、原料確保やコストアップにより引き続き厳しい事業環境。

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高				営業利益			
		24年3月期	23年3月期	増減	前年対比	24年3月期	23年3月期	増減	前年対比
加工食品	加工食品	1,036	989	48	+4.8%	33	17	16	+90.3%
	ファインケミカル	80	78	3	+3.0%	14	14	0	+1.4%
	セグメント計	1,117	1,066	50	+4.7%	47	31	16	+50.9%



出典: インテージ SCI-p 冷凍調理・農産市場(マルハニチロ(株)カテゴリー分類別) 2022年4-2023年3月累計 平均購入規模(金額・数量)前年比

● 加工食品

原材料・資材等のコストアップが継続する場合は、商品の見直しや適宜価格改定を検討。

冷凍食品は、前期に生産設備を増強した麺類による収益の確保。伸長する麺・惣菜カテゴリの事業拡大。

中長期的には、不採算商品の改善や工場再編の計画等、事業構造を見直し、利益率の改善をめざす。

● ファインケミカル

既存商品で機能性表示食品の表示適格を取得して拡販するほか、医薬原薬(EPA、ヘパリン)の取扱いを拡大する。「予防食・未病食」分野への取組みを進める。



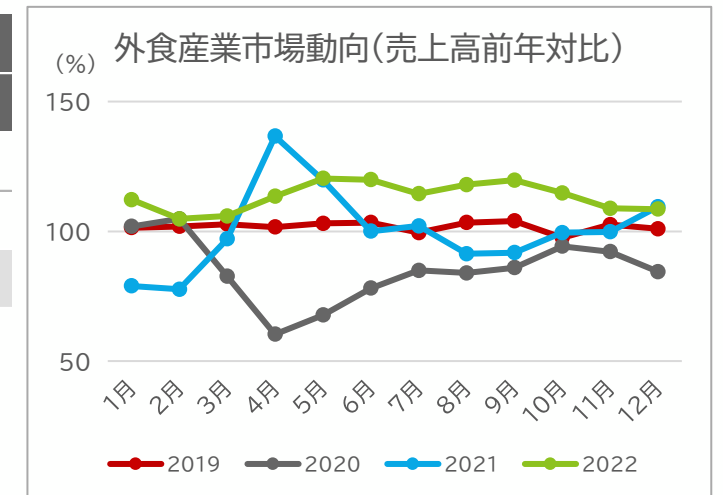
(左)麺カテゴリ「五目あんかけ焼そば」は設備増強
(右)注力する惣菜カテゴリの代表商品

食材流通セグメント

外食は回復基調も、引き続きコストアップの環境は継続。

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高				営業利益			
		24年3月期	23年3月期	増減	前年対比	24年3月期	23年3月期	増減	前年対比
食材流通	食材流通	2,125	2,113	12	+0.6%	29	23	7	+28.6%
	畜産	761	860	△ 99	△11.5%	9	8	1	+8.2%
	セグメント計	2,886	2,973	△ 88	△2.9%	38	31	7	+23.1%



出典:一般社団法人日本フードサービス業協会

- 食材流通 グループ内の連携を強化し、水産・畜産・業務用加工品の枠組みを超え、顧客起点での販売力を強化。市場変化に合わせた業態ニーズの把握と、新規市場の開拓による販路拡大。生産性向上。
- 畜産 国内外の多様な調達網を活用して市場ニーズに対応。グループ内連携を進めることで収益力の最大化を図る。

物流セグメント

保管需要は回復基調も、エネルギーコストや人件費などのコストアップの環境は継続。

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高				営業利益			
		24年3月期	23年3月期	増減	前年対比	24年3月期	23年3月期	増減	前年対比
物流	物流	186	176	9	+5.6%	15	16	△1	△5.2%

- 物流 電気料金上昇に伴う動力費の増加や人件費の増加によるコスト上昇分を、適切に価格へ転嫁することにより収益の改善を図る。
2024年問題に対応した、モーダルシフト推進や荷待ち時間の削減等により、物流基盤の強化を図る。
デジタル化や省人化技術の導入による効率化を推進する。
省エネ機器の導入等によりCO₂削減に継続的に取り組む。

TOPIC

～持続可能な物流体制の確保に向けて～
(株)マルハニチロ物流 川崎第一物流センター(神奈川県)に
冷凍倉庫を増設(2025年3月稼働予定)

- ・グループの物流効率化に向けて、保管スペースを拡大。
- ・環境負荷の低減に向けた、省エネ型機器の導入。
- ・省人化を進め、倉庫内の製品移動を自動化。



株主還元

業績及び財務状況等を総合的に勘案し、2023年3月期末の配当は、1株当たり10円の増配を実施。

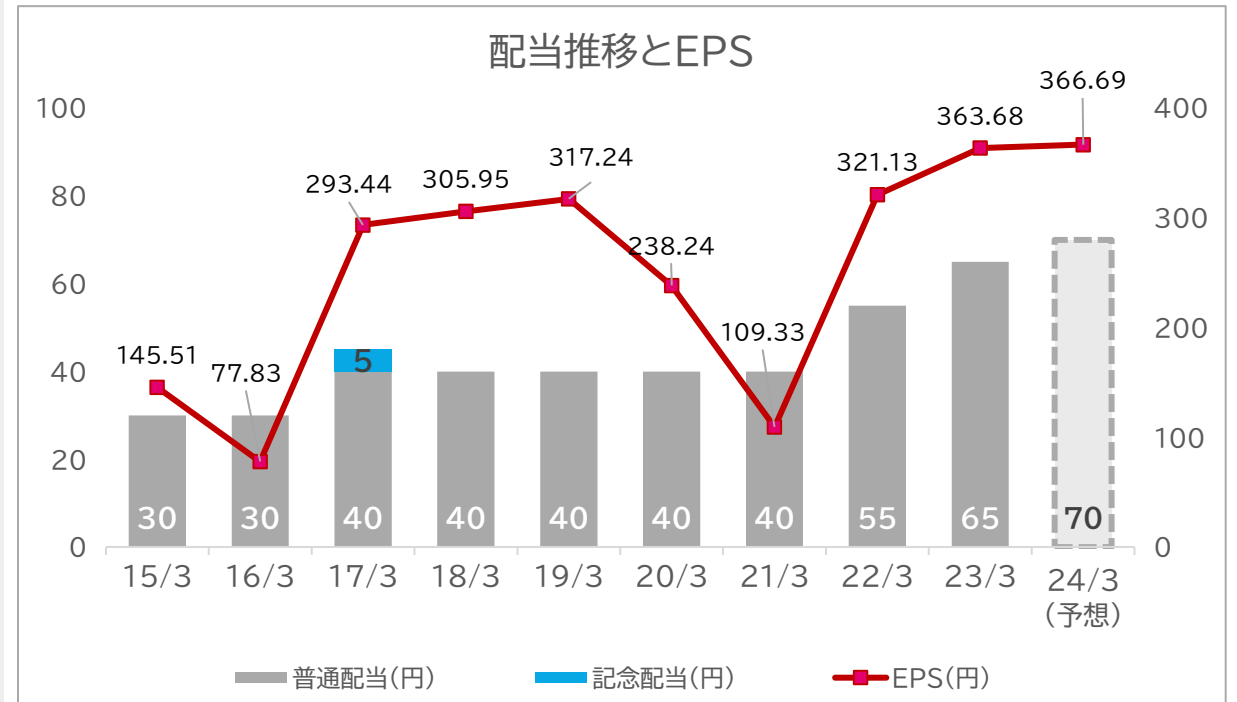
基本方針

営業キャッシュ・フローの安定創出により、成長に向けた再投資と安定的な株主還元を継続。

剰余金の配当

- 業績及び財務状況などを総合的に勘案し、2023年3月期の期末配当金については、1株当たり10円を増配し、65円とする。
- 2024年3月期の配当予想については、中間配当制度を導入するほか、株主への長期安定した利益還元を推進するため、2023年3月期より1株当たり5円を増配とし、70円(中間35円、期末35円)とする。

※第79期定時株主総会にて付議



今後も、財務規律を維持することを前提に、機動的な還元策を検討していく。

Appendix

2023年3月期 連結損益計算書

(単位:億円)

	23年3月期	22年3月期	増減	主な内容
売上高	10,205	8,667	1,538	
売上原価	8,852	7,462	1,390	
売上総利益	1,353	1,205	148	
販売費・一般管理費	1,057	967	90	
営業利益	296	238	58	
営業外収益	73	60	13	為替差益(23)
営業外費用	34	23	11	
経常利益	335	276	59	
特別利益	44	22	22	固定資産売却益(24)、投資有価証券売却益(8)
特別損失	63	22	41	固定資産処分損(21)、広島工場の火災損失(31)
税金等調整前当期利益	315	275	40	
法人税等	71	72	△1	
非支配株主に帰属する当期純利益	59	34	25	
親会社株主に帰属する当期純利益	186	169	17	

2023年3月期 連結貸借対照表

(単位:億円)

	23年3月末	22年3月末	増減	主な内容
流動資産	3,926	3,243	683	現預金(+87)、売上債権(+164)、棚卸資産(+440)
固定資産	2,446	2,243	203	有形固定資産(+87)、無形固定資産(+97)
資産合計	6,372	5,486	886	
流動負債	2,654	2,215	439	仕入債務(+55)、短期借入金(+358)
固定負債	1,593	1,392	201	長期借入金(+98)、社債(+50)
負債合計	4,247	3,607	640	
株主資本	1,636	1,533	103	剰余金(+106)、自己株式(△2)
その他包括累計	147	69	78	
非支配株主持分	342	277	65	
純資産合計	2,125	1,879	246	
負債純資産合計	6,372	5,486	886	
有利子負債	3,011	2,506	505	
自己資本比率	28.0%	29.2%	△1.2	

資産の増加(886億円)

- ・販売好調・原料高・季節要因による売上債権の増加
- ・棚卸資産(主に水・畜産物)の増加
- ・北米スケソウダラ関連資産取得による、有形・無形固定資産の増加

負債の増加(640億円)

- ・仕入債務の増加(前年同期比: +55億円)
- ・有利子負債の増加(前年同期比: +505億円/主に商事事業での調達価格増加及び欧州事業拡大に伴う借入金の増加)によるもの

2023年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	23年3月期	22年3月期	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 0	192	△ 193	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (+315) ・減価償却費 (+151) ・売上債権の増減額<増加:△> (△98) ・棚卸資産の増減額<増加:△> (△352) ・仕入債務の増減額<減少:△> (+17) ・法人税等の支払額 (△55)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 239	△ 103	△ 136	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△204) ・有形固定資産の売却による収入 (+46) ・投資有価証券の売却償還による収入(+32) ・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 (△33)
財務活動による キャッシュ・フロー	303	△ 172	475	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減<減少:△> (+256) ・長期借入れによる収入 (+612) ・長期借入金の返済による支出 (△484) ・社債の発行による収入(+50) ・自己株式の取得による支出(△54) ・配当金の支払額(△29)
現金・現金同等物の 期末残高	334	244	89	—

2023年3月期 セグメント・ユニット別 実績

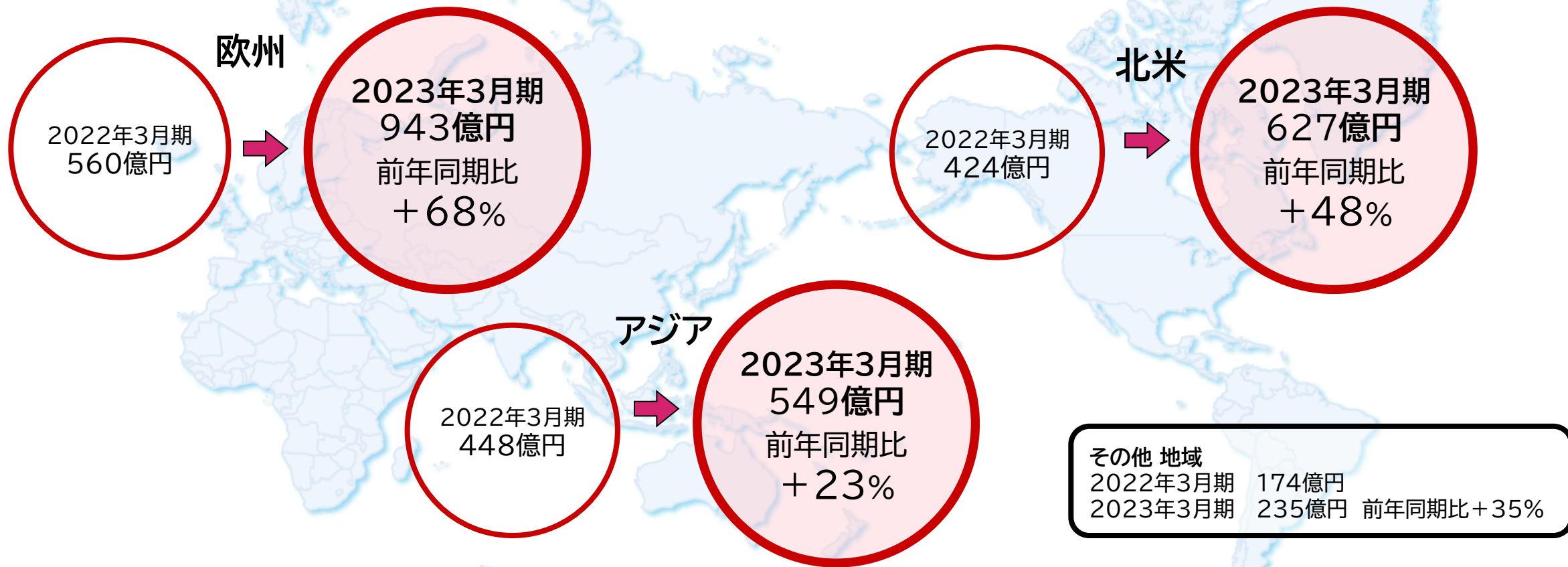
(単位:億円)

セグメント	ユニット	売 上 高					営 業 利 益				
		23年3月期	22年3月期	増減	年間計画	年間計画比	23年3月期	22年3月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	422	315	108	395	+6.8%	18	3	15	15	+17.8%
	養殖	159	146	12	148	+7.0%	16	△0	16	13	+23.3%
	水産商事	3,099	2,786	314	2,816	+10.0%	45	38	7	49	△8.1%
	海外	2,305	1,589	715	2,228	+3.4%	134	93	42	109	+23.3%
	セグメント小計	5,985	4,836	1,149	5,588	+7.1%	214	133	80	187	+14.3%
加工食品	加工食品	989	974	15	958	+3.2%	17	39	△22	29	△39.3%
	ファインケミカル	78	68	9	77	+0.8%	14	11	3	14	△3.3%
	セグメント小計	1,066	1,042	24	1,035	+3.0%	31	51	△19	43	△27.3%
食材流通	食材流通	2,113	1,908	205	2,077	+1.7%	23	32	△10	25	△8.3%
	畜産	860	711	149	819	+5.0%	8	7	1	5	+56.4%
	セグメント小計	2,973	2,619	354	2,896	+2.7%	31	39	△8	30	+3.2%
物流	物流	176	166	10	176	+0.0%	16	11	5	14	+16.8%
	その他	4	4	△0	4	△0.2%	3	2	1	2	+24.7%
	全社	—	—	—	—	—	1	2	△1	△5	△125.8%
	合計	10,205	8,667	1,538	9,700	+5.2%	296	238	58	270	+9.5%

2023年3月期の海外売上高

海外売上高	2022年3月期	2023年3月期	2025年3月期 (予想)
	1,606億円	2,354億円	2,150億円

海外売上高 比率	2022年3月期	2023年3月期	2025年3月期 (予想)
	18.5%	23.1%	22.4%



2024年3月期 通期計画(セグメント・ユニット別)

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売 上 高				営 業 利 益			
		24年3月期	23年3月期	増減	前年対比	24年3月期	23年3月期	増減	前年対比
水産資源	漁業	458	422	35	+8.5%	26	18	8	+46.6%
	養殖	142	159	△16	△10.5%	2	16	△14	△87.8%
	水産商事	2,680	3,099	△419	△13.5%	39	45	△6	△13.8%
	海外	2,327	2,305	23	+1.0%	106	134	△28	△21.1%
	セグメント計	5,608	5,985	△377	△6.3%	174	214	△40	△18.6%
加工食品	加工食品	1,036	989	48	+4.8%	33	17	16	+90.3%
	ファインケミカル	80	78	3	+3.0%	14	14	0	+1.4%
	セグメント計	1,117	1,066	50	+4.7%	47	31	16	+50.9%
食材流通	食材流通	2,125	2,113	12	+0.6%	29	23	7	+28.6%
	畜産	761	860	△99	△11.5%	9	8	1	+8.2%
	セグメント計	2,886	2,973	△88	△2.9%	38	31	7	+23.1%
物流	物流	186	176	9	+5.6%	15	16	△1	△5.2%
その他		4	4	0	0.0%	2	3	△1	△28.1%
全社		-	-	-	-	△6	1	△8	-
合計		9,800	10,205	△405	△4.0%	270	296	△25	△8.7%

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。